

平成 31 年度 河津町教育委員会 学校教育指導の重点

国の方針 生きる力の育成(主体的・対話的で深い学び)

- 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

県の方針 有徳の人の育成

- 自ら資質・能力を伸ばし、個人として自立した人
- 多様な生き方や価値観を認め、人との関わり合いを大切にす人
- 社会の一員として、よりよい社会づくりに参画し、行動する人

子どもの実態

- ・明るく素直で、同学年・異学年間でも仲がよい。
- ・基礎的・基本的な力は比較的定着しているが、知識を活用したり関連付けて考えたりする力に弱さが見られる。
- ・自分の考えを進んで発表するなど、豊かな表現力について課題が見られる。

保護者・地域の実態

- ・海、山、川に囲まれた自然豊かな環境である。
- ・学校に対してとても協力的で、参観会等の学校行事や PTA 活動には積極的に参加するなど、学校を支えようとする意識が強い。
- ・純朴な地域性で、学校教育に寄せる関心は高い。
- ・地域の行事も盛んで、地域で子どもを育てようとする気風がある。

河津町教育委員会 学校教育の方針

ふるさとを愛し、郷土に誇りを持ち、豊かな心身を育み、社会に雄飛する「人材育成」に努める

目指す子ども像

自ら学び、自ら考え、判断し、進んで行動できる子ども

豊かな感性

～自他を認め、共に磨き合う力を育てる～

- 命を大切にし、共に生きる子ども
- 「いじめをしない・させない・許さない」という強い意志を持った子ども
- 真理を求め、深く考え、自ら動き出す子ども

確かな学力

～夢をもち、共に学び合う力を育てる～

- 感性や知的好奇心を発揮し、学び続ける子ども
- 豊かに表現し、共に高め合う子ども
- 学んだことを、次の学年や生活に生かす子ども

健やかな心身

～体を鍛え、共に高め合う力を育てる～

- 運動に親しみ、進んで体力向上に努める子ども
- 基本的な生活習慣を身に付け、自ら律する子ども
- 望ましい食習慣を身に付け、健康の保持増進に努める子ども

目指す学校の姿

- 子ども同士の好ましい人間関係、教員との信頼関係のもと、集団の一員として、子どもが安心して過ごせる、居心地のよい学級を主体として自分の力を発揮できる学校
- 分かりやすい授業や問題解決的な学習など、子ども主体の学びの授業が展開され、つまずきや試行錯誤などが当然のこととして受け入れられる学校
- 教師同士が気軽に互いの授業を見合い、意見交換をし、子どもの表れをもとに学びについて指導観を共有しながら授業力を高め合う学校
- 家庭や地域と連携をとり、郷土学習や自然体験、社会体験など、子どもに様々な活動の場を提供できる学校

重点 1

安全・安心な環境づくりを推進し、「命を守る教育」の充実に努める。

重点 2

いじめが起こりにくい人間関係づくりに努める。

重点 3

道徳教育を基盤とし、人権教育を推進するとともに、特別支援教育の充実に努める。

重点 4

郷土学習を推進し、自然体験活動やボランティア活動の充実に努める。

重点 1

「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業づくりを通して「確かな学力」の育成を図る。

重点 2

外国語教育を充実させ、国際理解を深める基礎を培う。

重点 3

学校における読書活動について、文化の家(図書館)と連携を図り取り組む。

重点 1

学校体育の充実を図り、生涯スポーツの基礎づくりに努める。

重点 2

家庭との連携を図り、基本的な生活習慣について自ら律していこうとする態度を養う。

重点 3

食育の推進を図り、体育・健康に関する取組を推進し、健やかな心身を育む。

家庭・地域との連携

重点 1

家庭教育支援の充実を図り、地域の子どもの地域で育む体制づくりに努める。

重点 2

町内にある文化財を知り、町民の一人として誇りと愛着を持てるように育む。

河津町教育委員会では、家庭での躰(しつけ)や社会教育活動として、三美運動を推進します。

- 1 美しいあいさつ
- 2 美しいことば
- 3 美しいふるまい

